

## 高類似率≠剽窃

類似率が示す数字は、「データベース中の文献との照合結果、提出された文章全体のうちどれだけがハイライトされているか」を示します。

このことは、低い類似率でも剽窃の可能性があり、また高い類似率でも剽窃ではない可能性がある、ということを示します。剽窃されているかどうかの判断は、ハイライトされた部分をお客様の手で精査していただくことによって初めて可能となります。

(類似率のパーセンテージのボーダーラインの有無等は、各出版社により異なります。論文投稿先の出版社にお問い合わせいただくか、出版社の投稿規定をご参照ください)

## 引用、参考文献、Methodもチェック対象

論文におけるダブルクォーテーション(“)やかぎかっこ(「」等)を使って本文から直接引用された文も、類似性チェックの対象です。iThenticateは飽くまでも一致部分を機械的に検出するツールですので、引用箇所は高い確率で一致、検出されます。

Methodや参考文献も、同様にチェック対象になります。したがって、類似部分検出結果で得られるパーセンテージの数字は、これらの検出箇所を含んだ数字が表示されます。

これらをチェック対象から外す機能も御座いますが、外れないパターン(例えば[1]など、数字で示されている引用箇所など)もありますので、注意が必要です。

## 「よくある言い回し」、「固有名詞」もチェック対象

iThenticateの性質上、よく使われる言い回しや固有名詞もハイライトされることがあり、当然チェック結果に反映されます。したがって、これらを多用した文書の類似率が剽窃の有無に関わらず上がる場合があります。

## 類似率はチェック時期によって変動することがある

iThenticateのデータベースは、時を追うごとにより多くの文書、論文、ネットソースが蓄積されていきます。ある時期にはデータベース上に存在しなかったソースが一週間後には蓄積されているという状況ですと、同じ文書でも時期によって違うチェック結果が得られることがあります。